

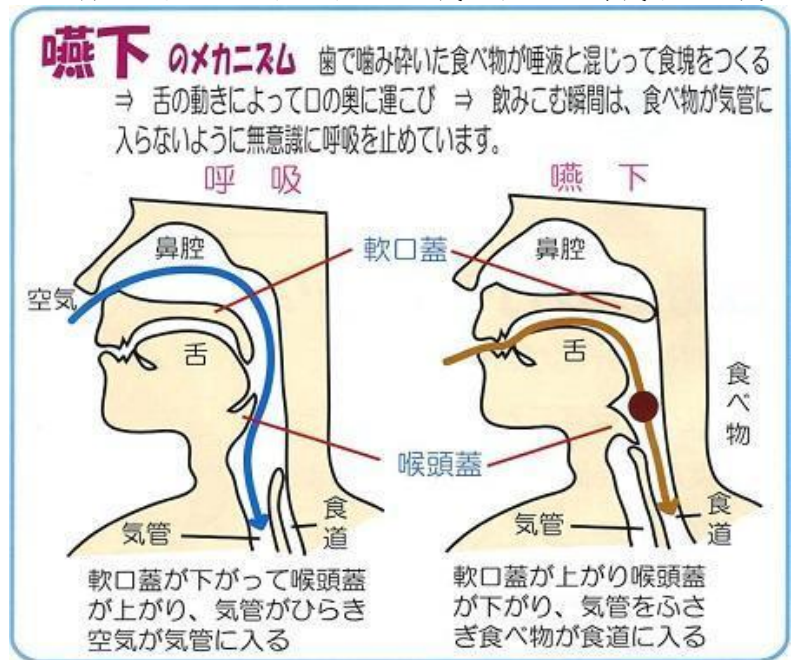
嚥下障害とは

「物を食べる」ことは、「食べ物を認識し」「口に入れ」「嚥んで、のみ込む」までの動作からなります。このうち「のみ込む」という動作が「嚥下」にあたります。嚥下は、舌の運動により食べ物を口腔から咽頭に送る口腔期、嚥下反射により食べ物を食道に送る咽頭期、食道の蠕動(ぜんどう)運動により胃まで運ぶ食道期に分けられます。嚥下には多くの器官が関わっており、これらが障害を受けるさまざまな疾患で、嚥下障害が起こります。嚥下障害が起こると、食物摂取障害による栄養低下と、食べ物の気道への流入(誤嚥(ごえん))による嚥下性肺炎(誤嚥性肺炎)が問題になります。嚥下障害を引き起こす疾患にはいろいろなものがありますが、とくに脳梗塞(のうこうそく)・脳出血などの脳血管障害、神経や筋疾患などでは高い率で起こります。また、高齢者の肺炎のかなりの部分は、加齢による嚥下機能の低下によって引き起こされる嚥下性肺炎であるともいわれ、高齢社会を迎えてその対応が問題になっています。



主な症状

食べ物がのみ込みにくくなったとの自覚(嚥下困難)や、食事の時のむせ(誤嚥)が現れます。発声・構音状態も嚥下機能の参考になります。嚥下困難の訴えがない場合もありますが、食事の状態で判断することもできます。固いもの、ぱさついたもの、まとまりのないもの、固形物と水物の混合したものはのみ込みづらい食べ物であり、食事に時間がかかるようになります。誤嚥の有無はのみ込んだあとの咳や、食後によく痰が出るなどから判断できます。水を飲んだあとの痰が絡んだような声は、喉頭まで食べ物が侵入していることを示唆します。気道反射の低下している場合には、むせは認められず、さらに肺炎を起こしやすい状況になるので注意が必要です。なお、高齢者の嚥下(誤嚥)性肺炎は、発熱などの症状が軽度のこともあります。



診断

嚥下障害診療アルゴリズムに従って詳細を診断します。

- 1) 問診
- 2) 精神・身体機能の評価
- 3) 口腔・咽頭・喉頭などの診察
- 4) 簡易検査(スクリーニング検査)
- 5) 嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査
- 6) 摂食・嚥下状況の総合評価

治療の方法

1) 栄養管理

嚥下障害により経口摂取量が低下すると低栄養や脱水が生じるため、経管栄養を検討します。経鼻胃管では嚥下訓練の妨げにならないよう、細いチューブを用います。回復まで時間を要する場合は胃瘻造設を検討することもあります。胃食道逆流が問題となるようなら、姿勢や注入速度を確認し、半固形の栄養剤を用いるなどして対応します。精神・身体機能が保たれている症例では間欠的口腔食道経管栄養法(OE法)を導入できる場合もあります。

2) 気道管理

誤嚥は生命の危機に直結するため、健常者では強固な気道防御機構が備わっている。しかし、嚥下障害患者では気道感覚および喀出力が低下している場合も多く、気道の保護と強化に努める必要があります。喀出力が低下している場合は呼吸理学療法を行います。重度の唾液誤嚥がみられる場合は気管切開術または誤嚥防止手術を検討する必要があります。肺炎の予防には誤嚥物の清浄化も必要であり、看護師や歯科衛生士とともに口腔ケアを十分に行います。

3) 嚥下訓練

嚥下訓練には食物を用いない間接訓練(基礎的訓練)と、食物を用いる直接訓練(経口摂取訓練)があります。間接訓練は治療的アプローチ法であり、障害を受けた部位に働きかけ、嚥下機能の代償や補強・改善を目指した訓練であり、すべての嚥下障害患者が適応となり得えます。直接訓練は代償的アプローチ法とも解され、残存した嚥下機能を最大限に活用しつつ、嚥下姿勢や食形態の調整などにより誤嚥のリスク減少を目指します。軽度の嚥下障害では、摂食環境や摂食法、食形態の調整、誤嚥時の対応など嚥下指導のみでよい場合が多く、中等度以上の嚥下障害では間接訓練による機能改善と、代償的嚥下法の獲得を目指します。保存的治療を一定期間行っても、改善に至らない場合は外科的治療を検討します。

4) 外科的治療

障害された機能を補い、誤嚥を消失あるいは軽減させ、経口摂取を目指す嚥下機能改善手術と、気道と食道を分離することにより誤嚥を消失させる誤嚥防止手術に大別される。

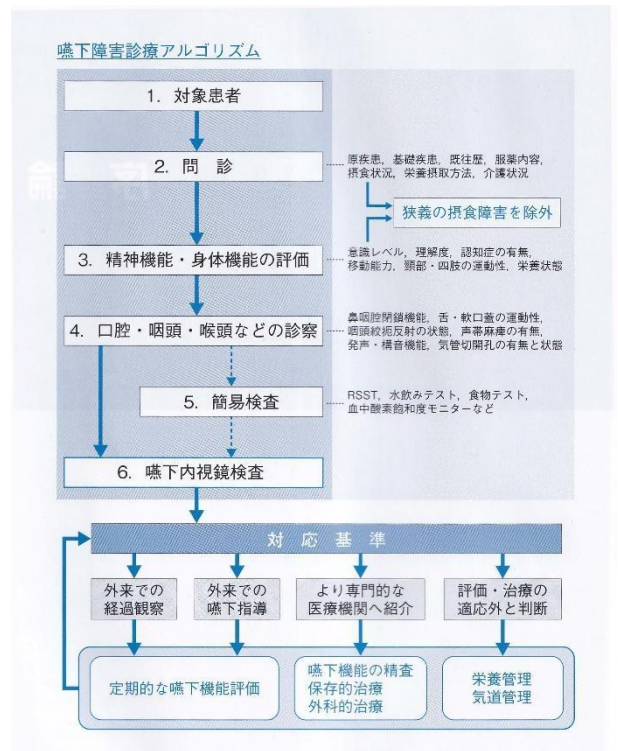
嚥下障害がある場合、放置していると機能はますます低下し、摂食障害はますます悪化していきます。そのため、早めに嚥下機能を回復するための診断・治療が大切です。患者さん個々の状態に応じて、耳鼻科や歯科で連携して改善を目指します。

詳しくは耳鼻科外来(3F)またはホームページでご確認ください。

明海大学歯学部総合臨床医学講座耳鼻咽喉科学分野 教授 野村 務

<http://www.meikai.ac.jp/dent/Otolaryngology.html>

2021/12/7



ま